

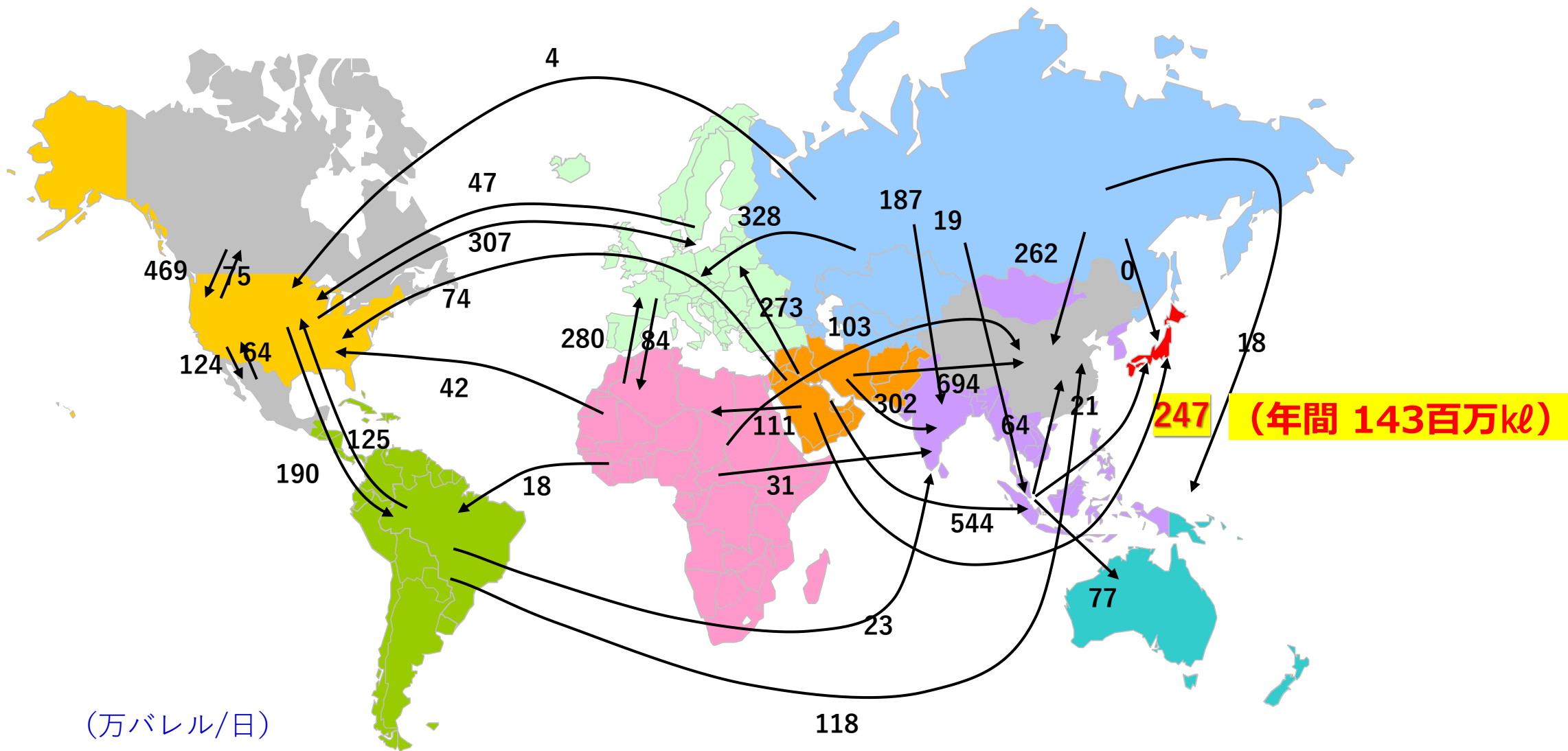
食品分野におけるプラスチック容器包装資源循環タスクフォース ご説明資料

最近の中東情勢とプラスチックへの影響について

2026年4月17日（金）

一般財団法人カーボンニュートラル燃料技術センター（JPEC）

世界の主な石油貿易 (2024年)

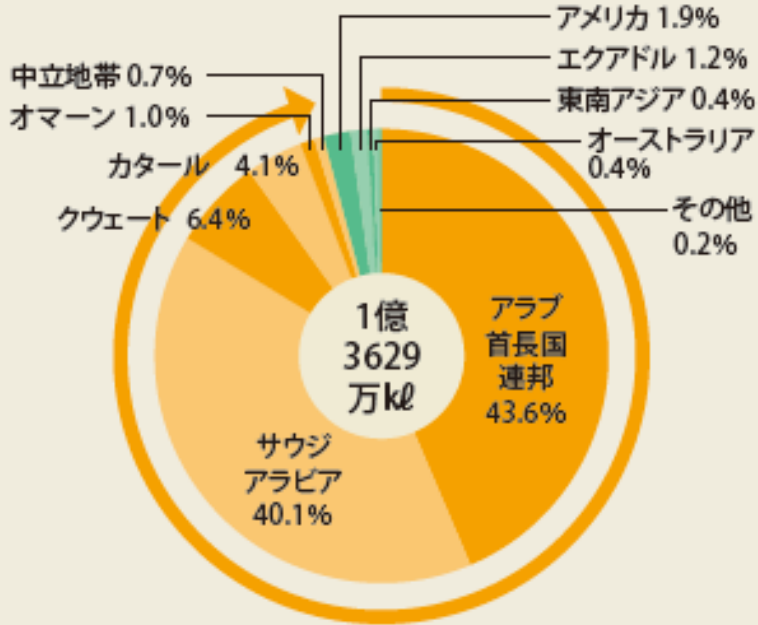


(注) 数値は原油及び石油製品の貿易量を表す。

資料：Energy Institute「Statistical Review of World Energy 2025」を基にEnergy Instituteの換算係数を使用して作成

日本の原油輸入国、原油輸入量及び中東依存度の推移

原油輸入量(2024年度)

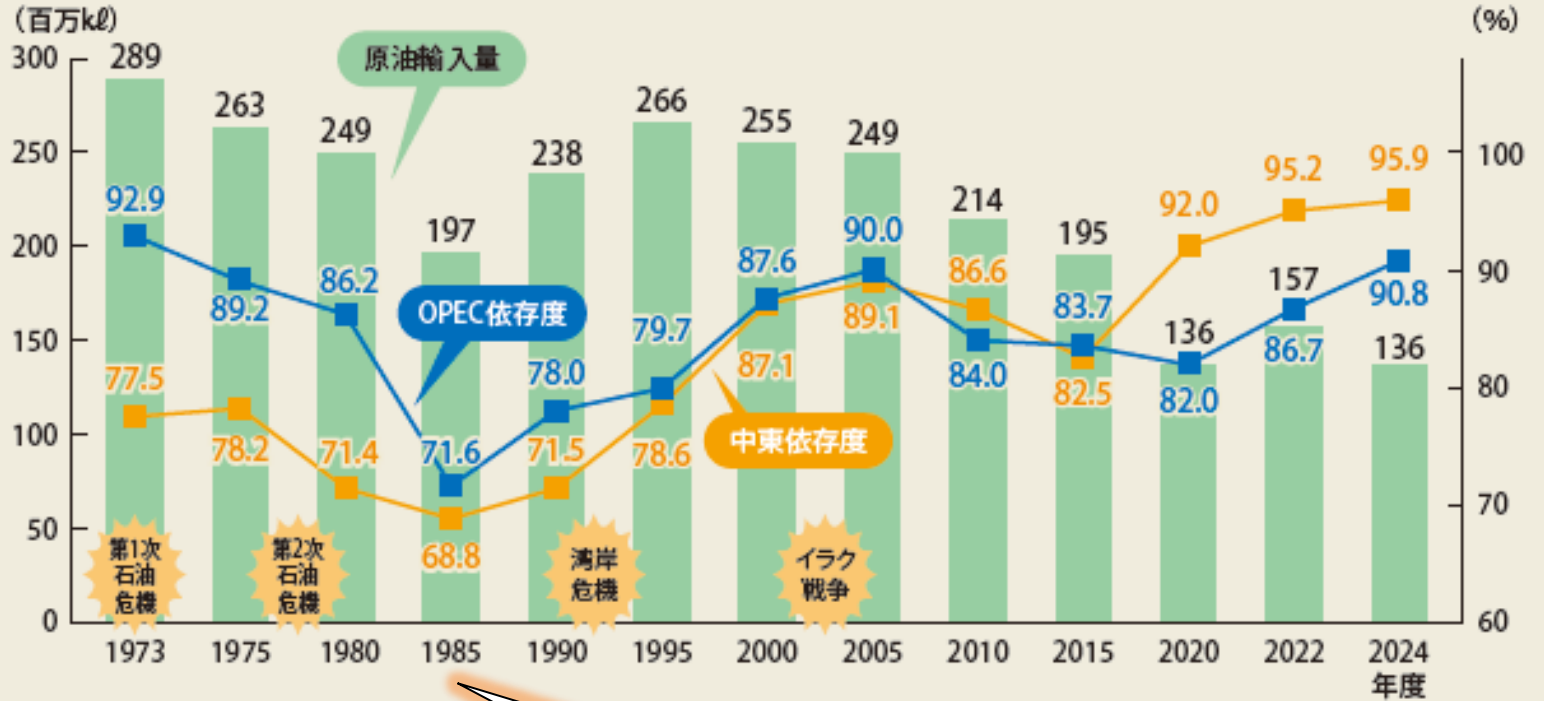


〈中東依存度95.9%〉

出所:資源エネルギー庁「資源・エネルギー統計」

中東依存度・OPEC依存度の推移

単位:百万kℓ(輸入量)、%(依存度)



※2019年1月にカタールがOPECから脱退した

出所:資源エネルギー庁「資源・エネルギー統計」、石油連盟

【中東依存度が高い主な理由】

- ◇埋蔵量が豊富
- ◇生産能力が高い
- ◇採掘コストが安価
- ◇製油所で処理し易い

【中東以外の輸入国】

- ◇インドネシア: 11%
- ◇中国: 7%
- ◇メキシコ: 5%
- ◇マレーシア: 4%



World Oil Transit Chokepoints

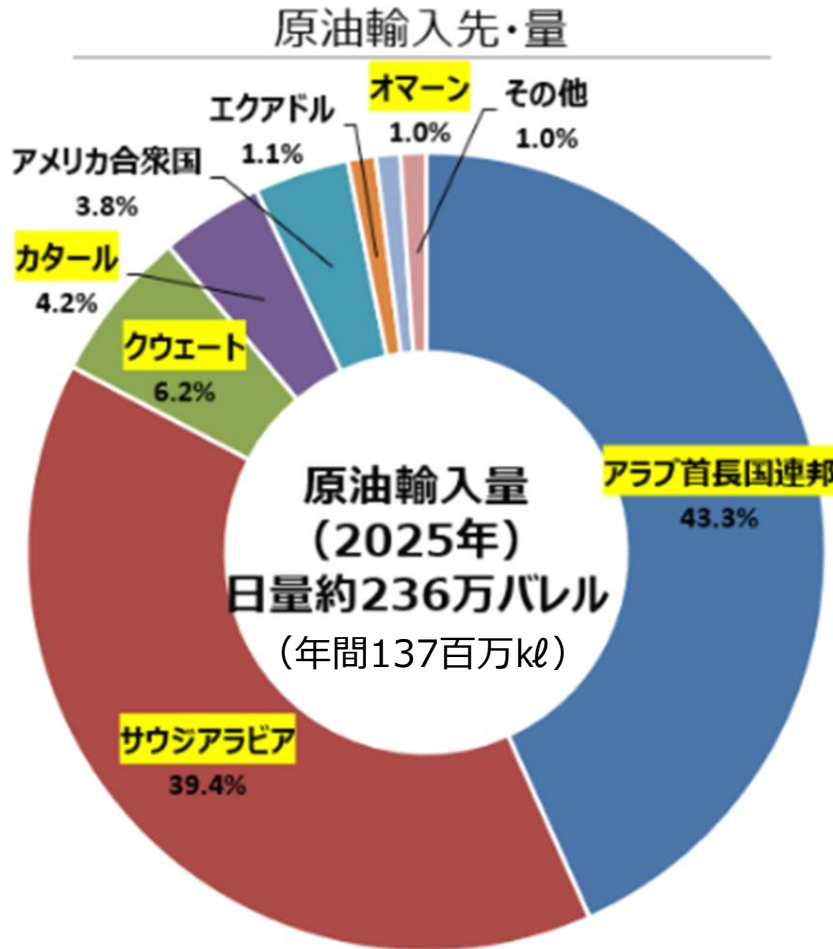
Table 1. Volume of crude oil and petroleum liquids transported through world chokepoints and the Cape of Good Hope, 2020–1H25

million barrels per day

	Location	2020	2021	2022	2023	2024	1H25
マラッカ海峡	Strait of Malacca	22.8	22.1	23.0	24.0	22.5	23.2
ホルムズ海峡	Strait of Hormuz	19.2	19.7	21.9	21.8	20.7	20.9
	Suez Canal and SUMED Pipeline	5.4	5.2	7.3	8.8	4.8	4.9
	Bab el-Mandeb	5.7	6.0	8.0	9.3	4.1	4.2
	Danish Straits ^a	3.1	3.1	4.2	5.0	26%	4.9
	Turkish Straits (Dardanelles)	3.2	3.3	3.2	3.5	3.6	20%
	Panama Canal ^b	1.7	1.8	2.2	2.2	2.0	2.3
	Cape of Good Hope	7.9	7.2	6.1	6.2	9.3	9.1
海上輸送	World maritime oil trade	74.1	75.9	78.6	80.2	79.7	79.8
原油供給	World total oil supply	94.1	95.8	100.6	102.6	103.3	104.4

https://www.eia.gov/international/analysis/special-topics/World_Oil_Transit_Chokepoints

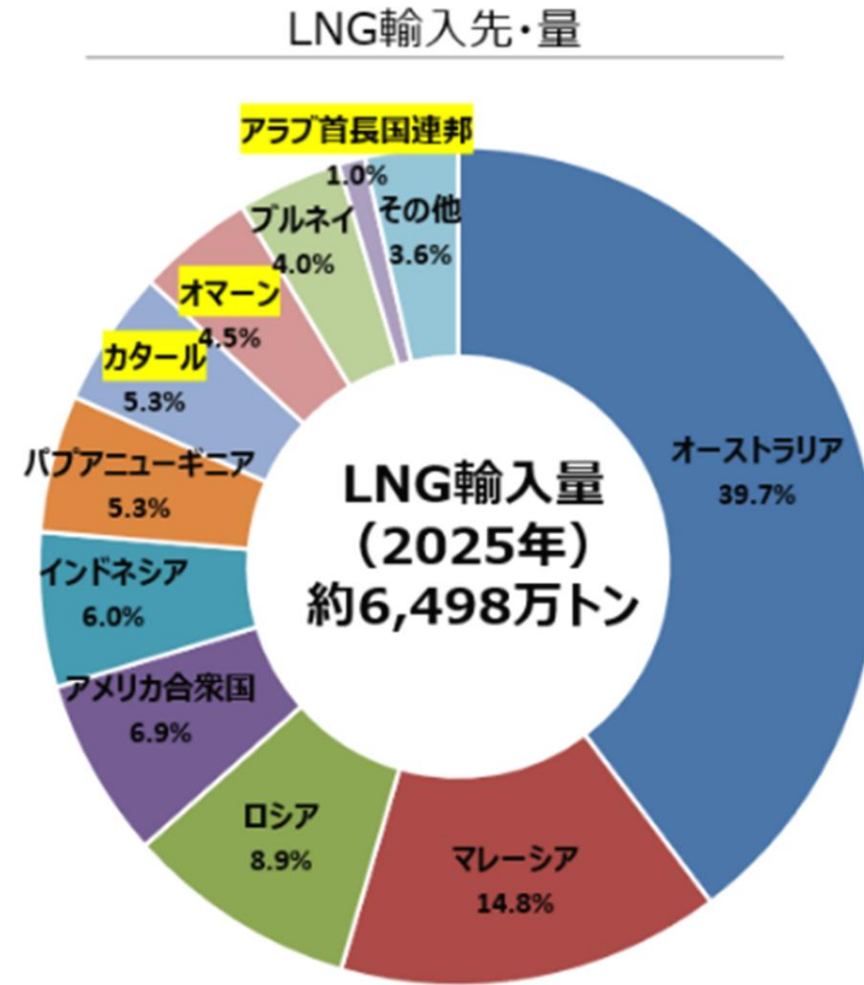
原油・LNGの輸入先・輸入量・・・中東、ホルムズ依存度



中東依存度 : 94.0%

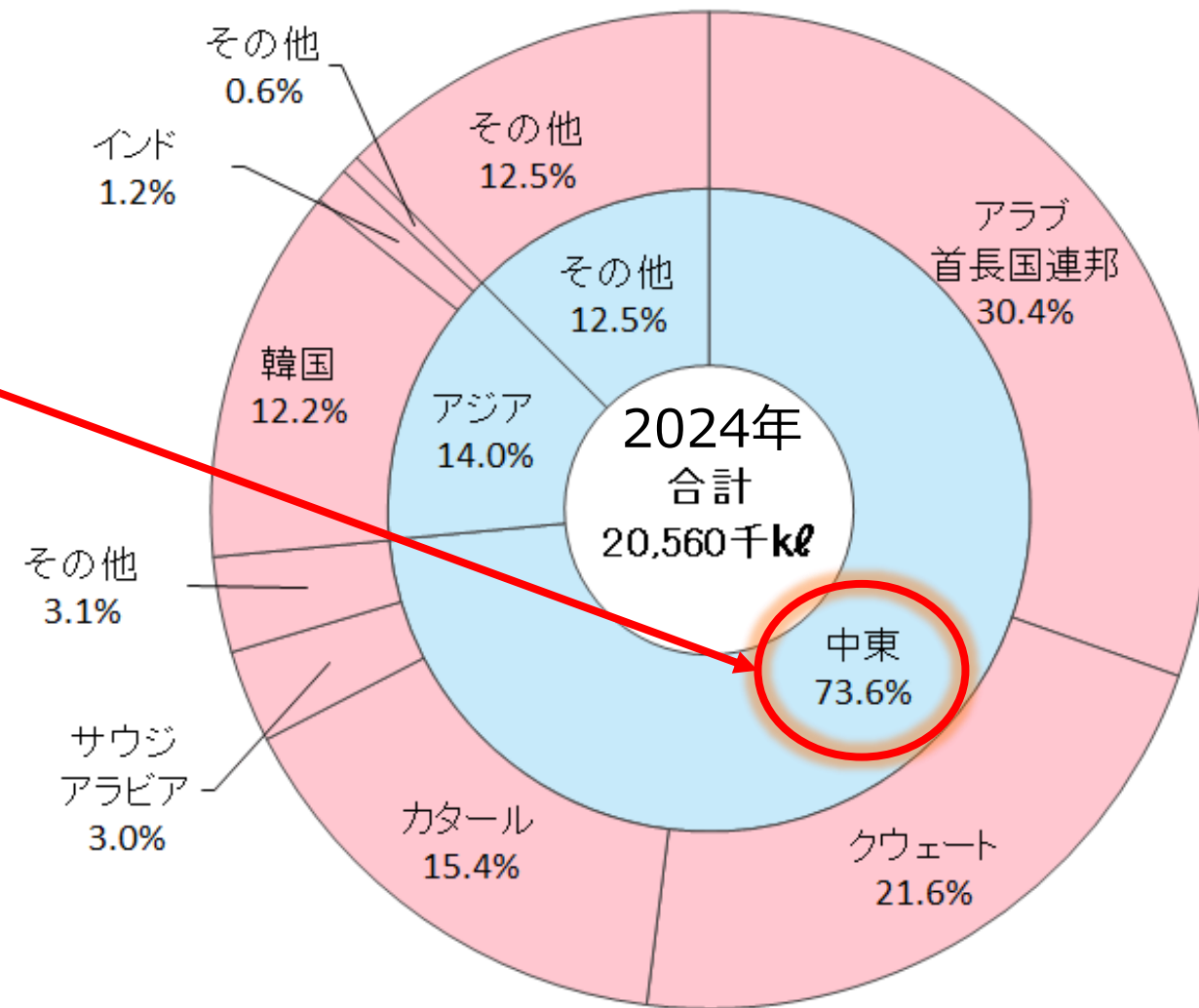
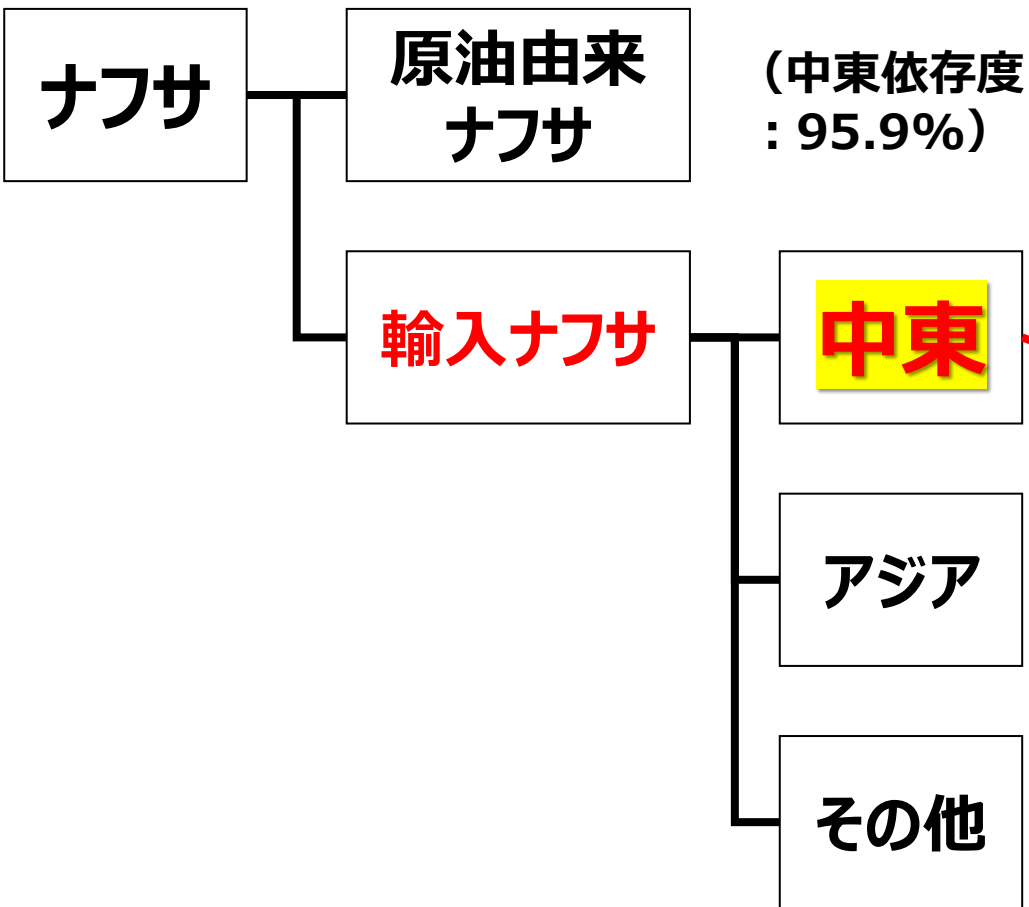
ホルムズ依存度 : 93.0%

出典 : 財務省貿易統計



中東依存度 : 10.8%

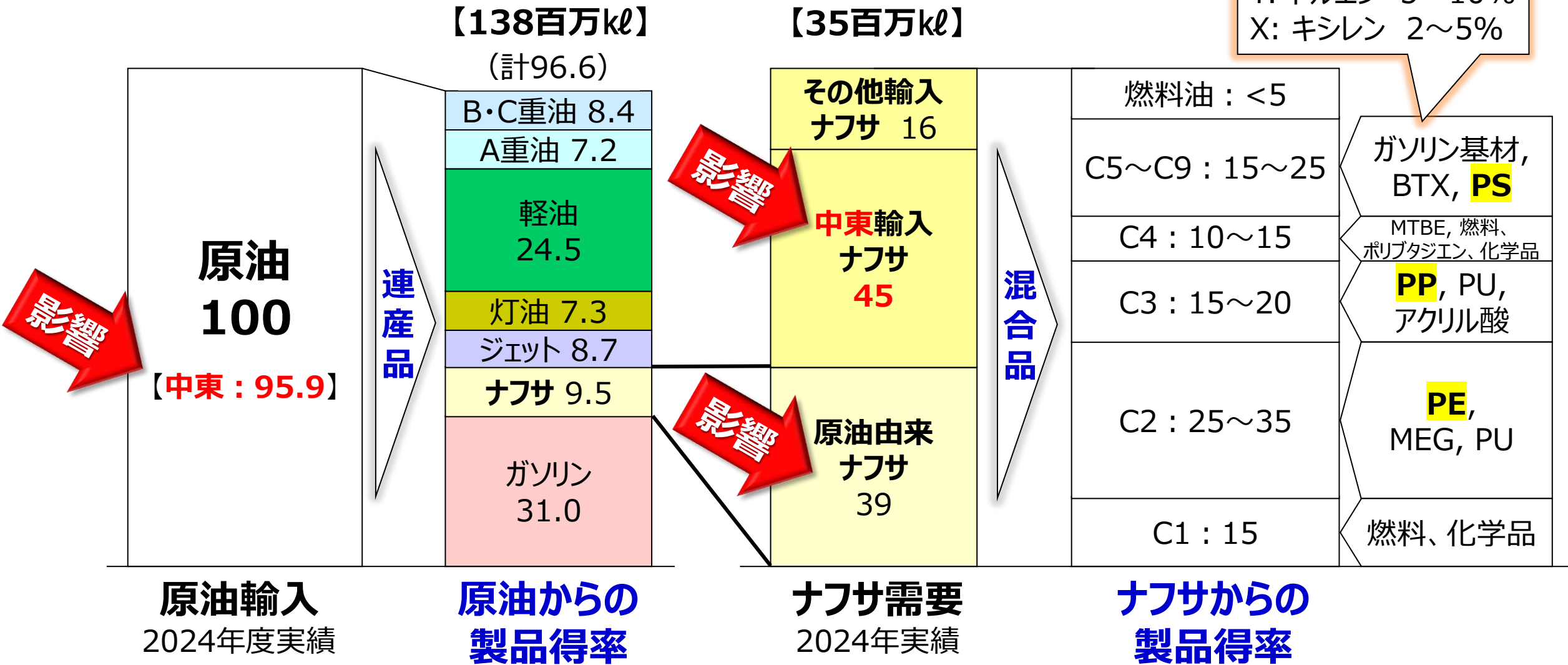
ホルムズ依存度 : 6.3%



(注) 財務省「貿易統計」

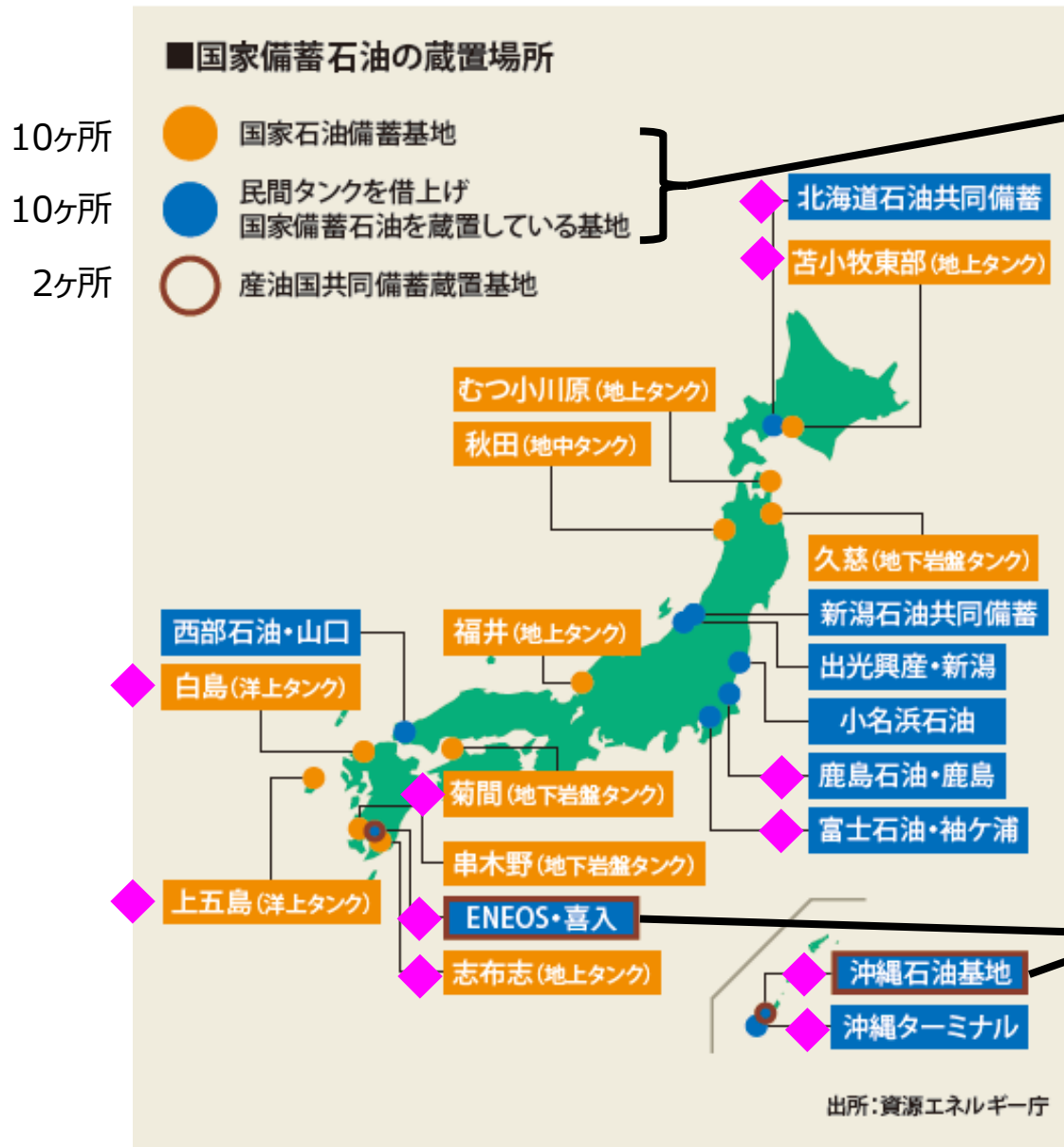
原油からのナフサ得率、ナフサ輸入構成・製品得率 (例)

B: ベンゼン 3~5%
 T: トルエン 5~10%
 X: キシレン 2~5%



出所：石油連盟、石油化学工業協会他の公開資料をもとにJPECにて作成

国家備蓄石油の蔵置場所と国家備蓄原油他の放出



- ◇ 経済産業省は、石油備蓄法第31条に基づき、当面**1ヶ月**分の**国家備蓄原油**の放出を決定 (3/24)
⇒ 5月上旬以降、石油の国家備蓄の約20日分を追加で放出すると発表 (4/10)
- ◇ 放出予定総量 : 約850万kl
- ◇ 放出予定総額 : 約5,400億円
- ◇ 放出基地 : 左記 ◆ 11か所
- ◇ 放出予定時期 : 3/26 以降順次
- ◇ 放出先 : ENEOS株式会社、出光興産株式会社、コスモ石油株式会社、太陽石油株式会社

◇ 3/26~ 約**6日**分の**産油国共同備蓄原油**の放出開始
【UAE、サウジアラビア及びクウェート】

<https://www.meti.go.jp/press/2025/03/20260324004/20260324004.html>

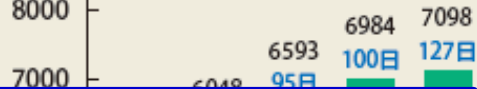
石油備蓄量・備蓄日数の推移及び放出事例

■石油備蓄量・備蓄日数の推移

◇ナフサ：国家備蓄なし

単位：万kℓ

民間備蓄
国家備蓄
産油国共同備蓄



令和8年3月21日（3月18日時点）

	備蓄日数
国家備蓄	146日分
民間備蓄	92日分
産油国共同備蓄	6日分
合計	244日分

令和8年4月17日（4月14日時点）【速報値】

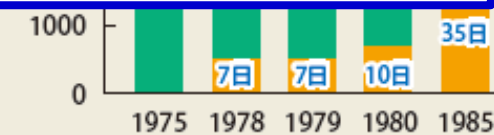
出所：資源エネルギー庁

	備蓄日数
国家備蓄	138日分
民間備蓄	78日分
産油国共同備蓄	4日分
合計	220日分

24日分 放出済み

国家備蓄放出

①ウクライナ情勢対応(22年4月～9月)
900万バレルの原油を22年9月までに放出



備蓄放出事例
(民間備蓄義務量の引き下げ)

第2次石油危機
1979.3～1980.8
申請ベース

湾岸戦争
1991.1.17～3.6
82日→78日
(4日分 1505万バレル)

ハリケーン・カトリーナ
2005.9.7～2006.1.4
70日→67日
(3日分 732万バレル)

東日本大震災
2011.3.14～3.21～5.20
70日→67日→45日
(25日分) 申請ベース

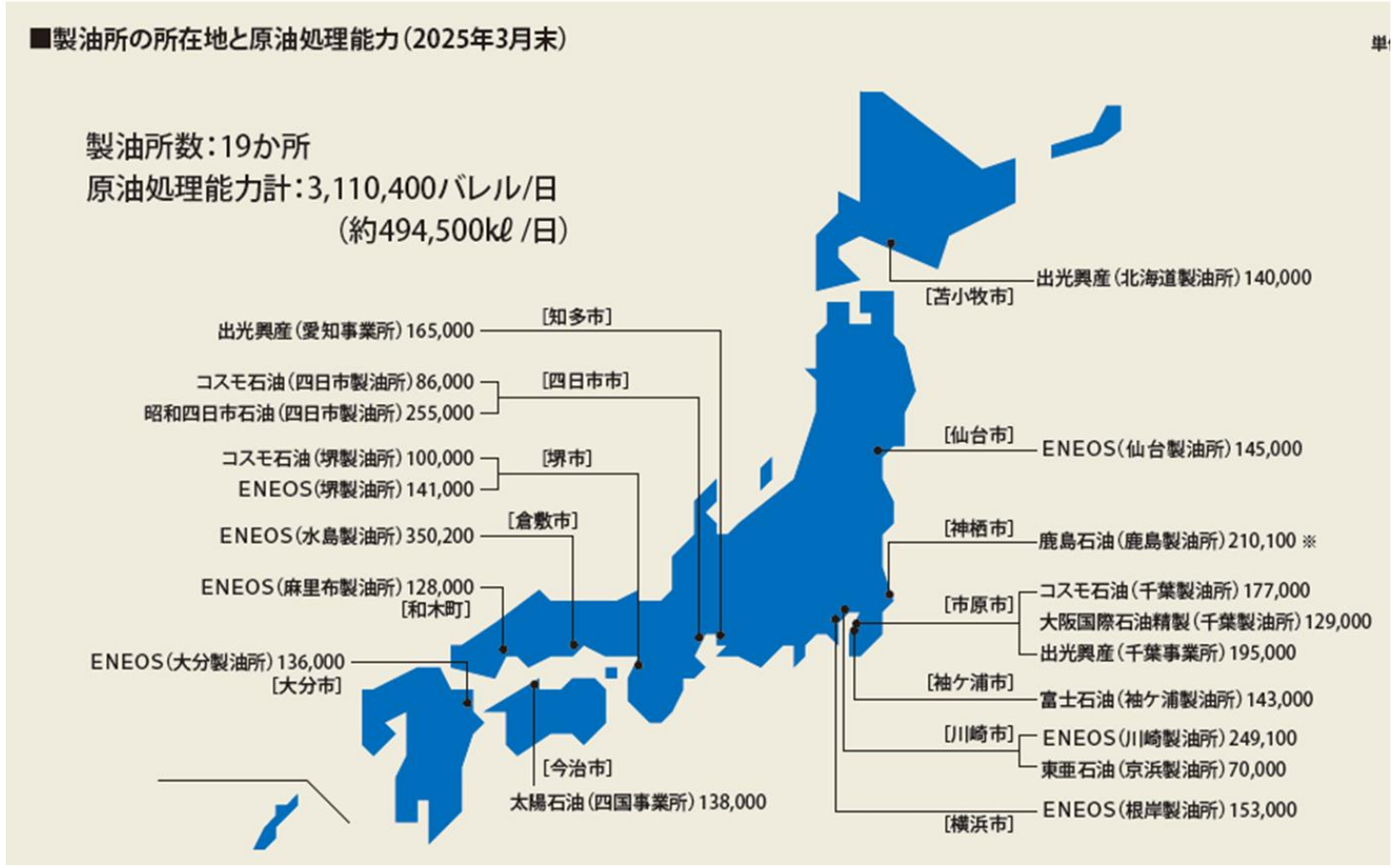
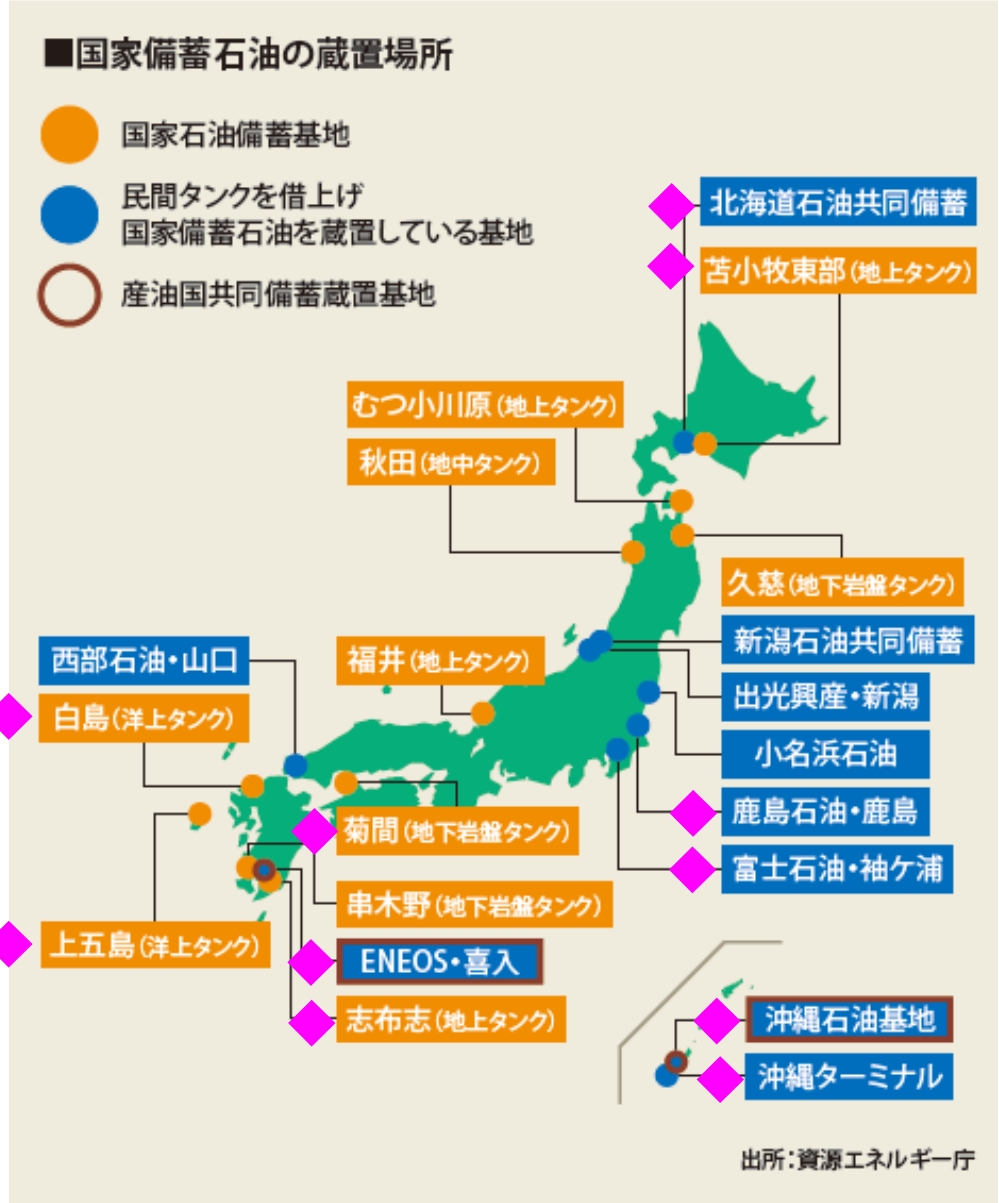
リビア情勢
2011.6.24～12.31
70日→67日
(3日分 750万バレル)

ウクライナ情勢
2022.3.10～4.16～2024.4.30
70日→66日→63日
(7日分 1350万バレル)

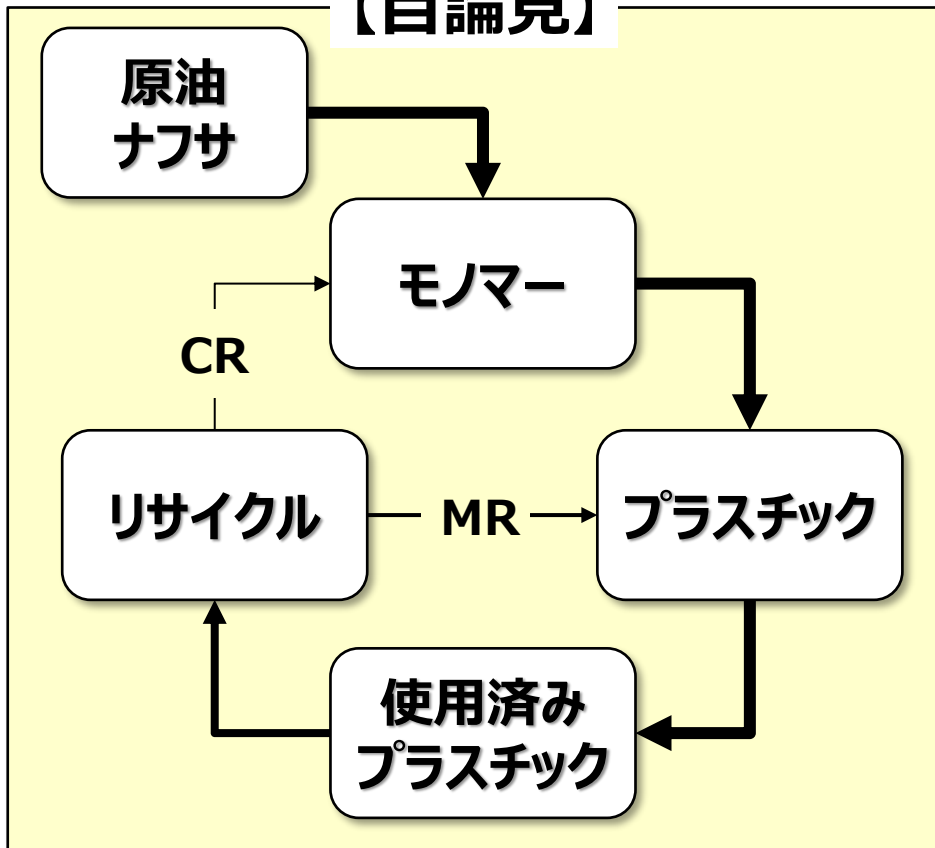
(注)：備蓄量は製品換算、備蓄日数は石油備蓄法方式

出所：資源エネルギー庁

【参考】 国家備蓄原油の放出基地と製油所の所在地

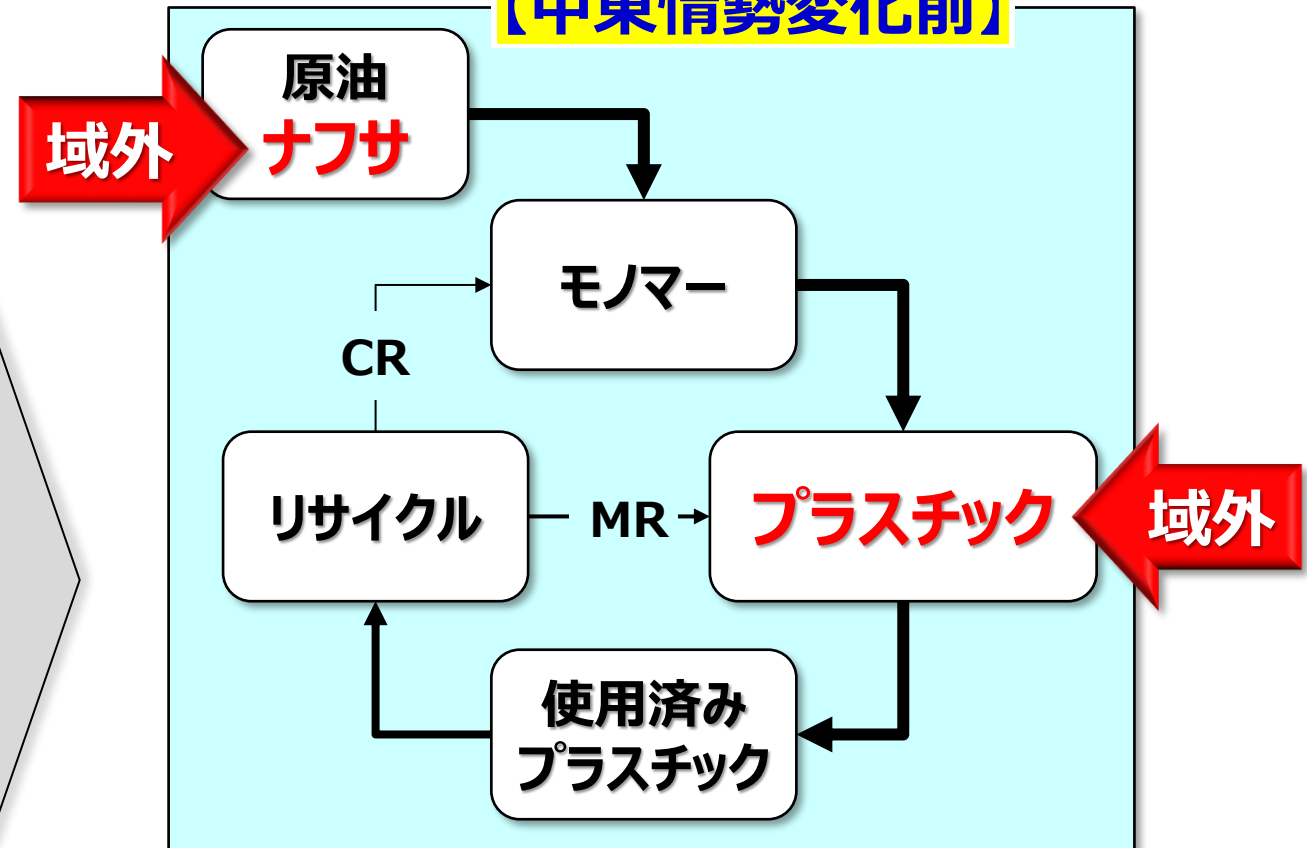


【目論見】



◇ 欧州域内を中心に事業が成立

【中東情勢変化前】



◇ 中国、インド、中東から安価なナフサ、バージンプラ、再生プラの流入増
⇒ 域内の関連産業が停滞

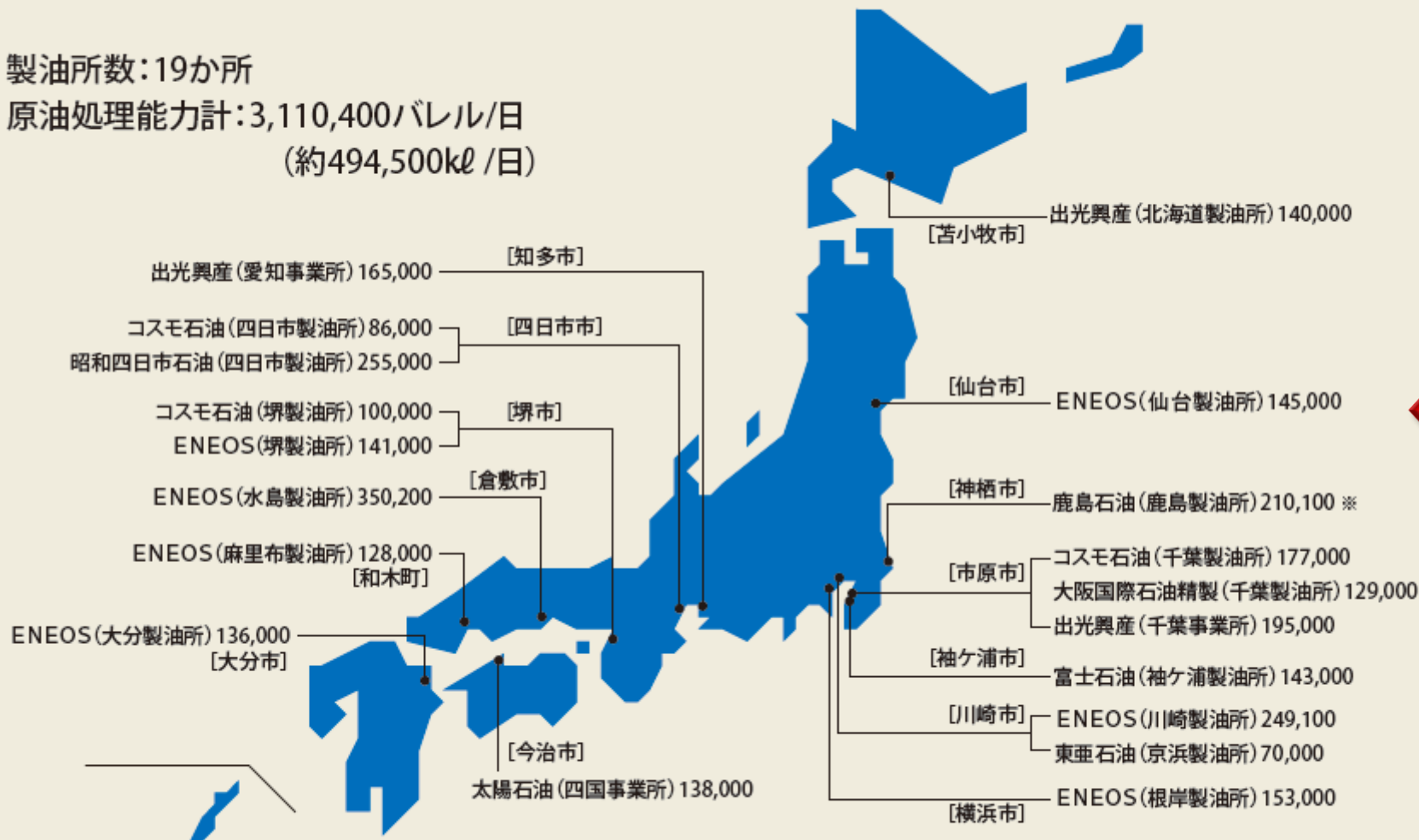
中東情勢がもたらす影響について：まとめ

■製油所の所在地と原油処理能力(2025年3月末)

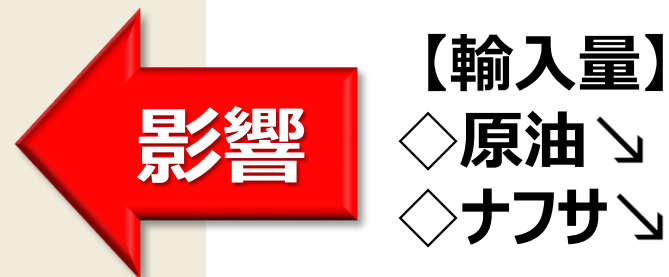
単位:バレル/日

製油所数:19か所

原油処理能力計:3,110,400バレル/日
(約494,500kℓ/日)



※鹿島石油(鹿島製油所)の数値には、コンデンセートスプリッターの処理能力を含む



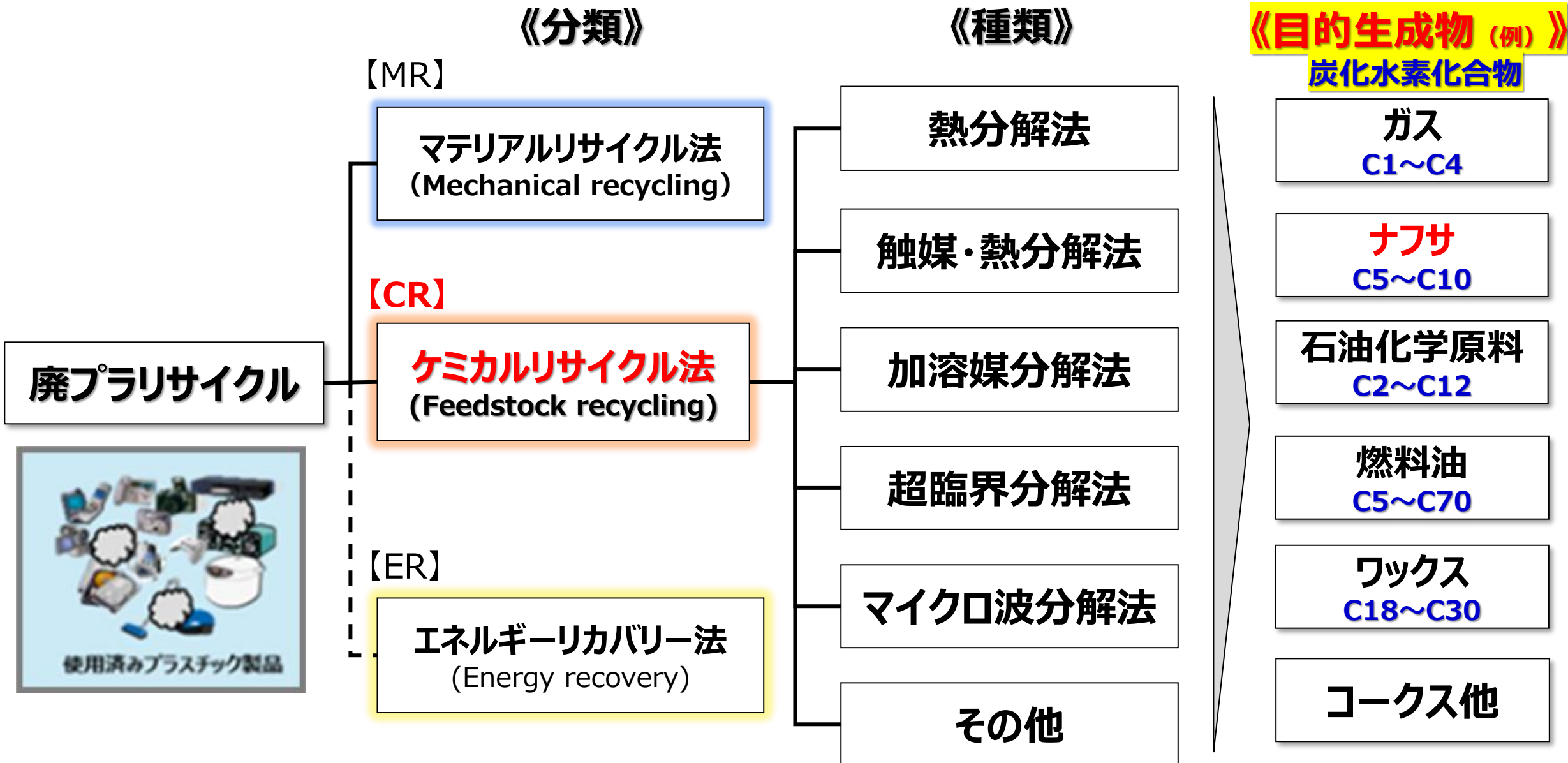
- △エネルギー安定供給
- △プラスチック製造
- プラリサイクル推進
- ➡国内の炭素資源循環

「廃プラ：備蓄資源」

出所:石油連盟

以上

以下、参考情報



中東原油価格の推移・・・中東情勢変化前まで

■中東原油価格の推移 (月平均)

単位:ドル/バレル



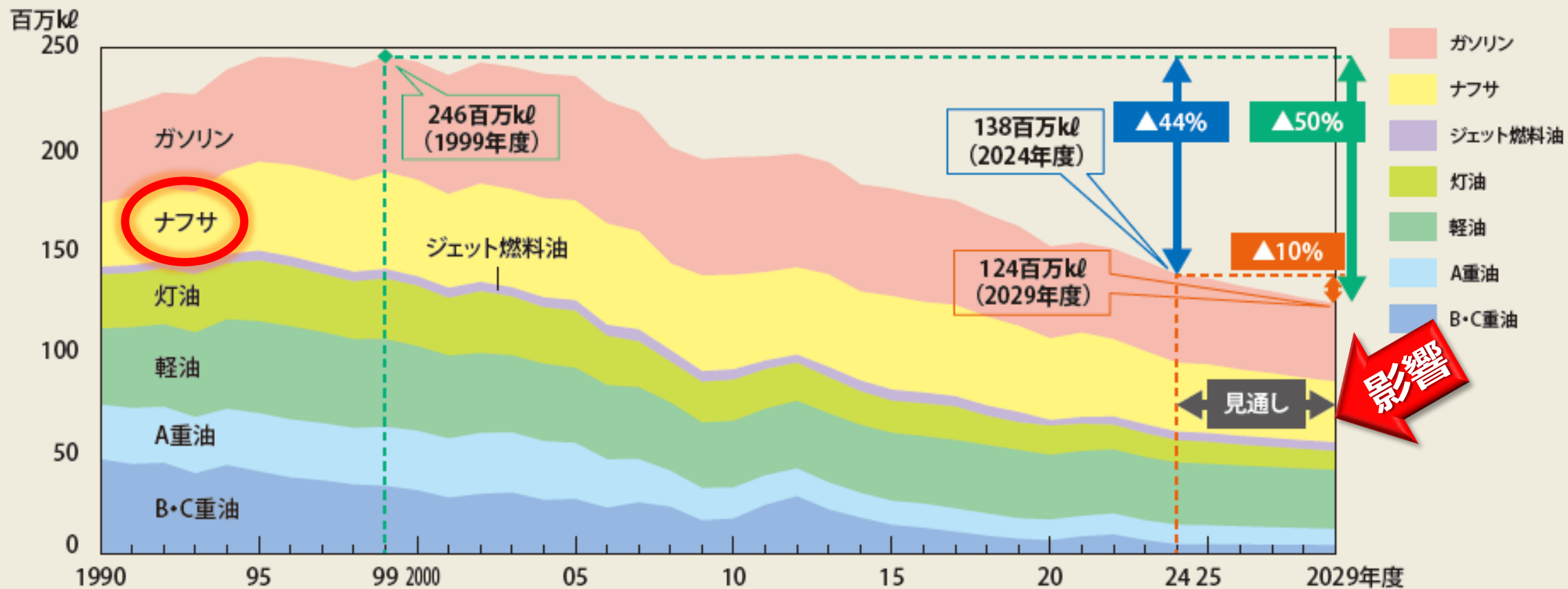
※1 公式販売価格:1974年10月までは公示価格(P.P.)、74年11月にOPECは新たに公式販売価格(OSP)を設定(公示価格×0.93)

※2 ネットバック価格:製品得率および製品の市場価格から逆算した原油の評価価格

出所:各種資料より石油連盟が作成

石油製品国内需要の推移と見通し

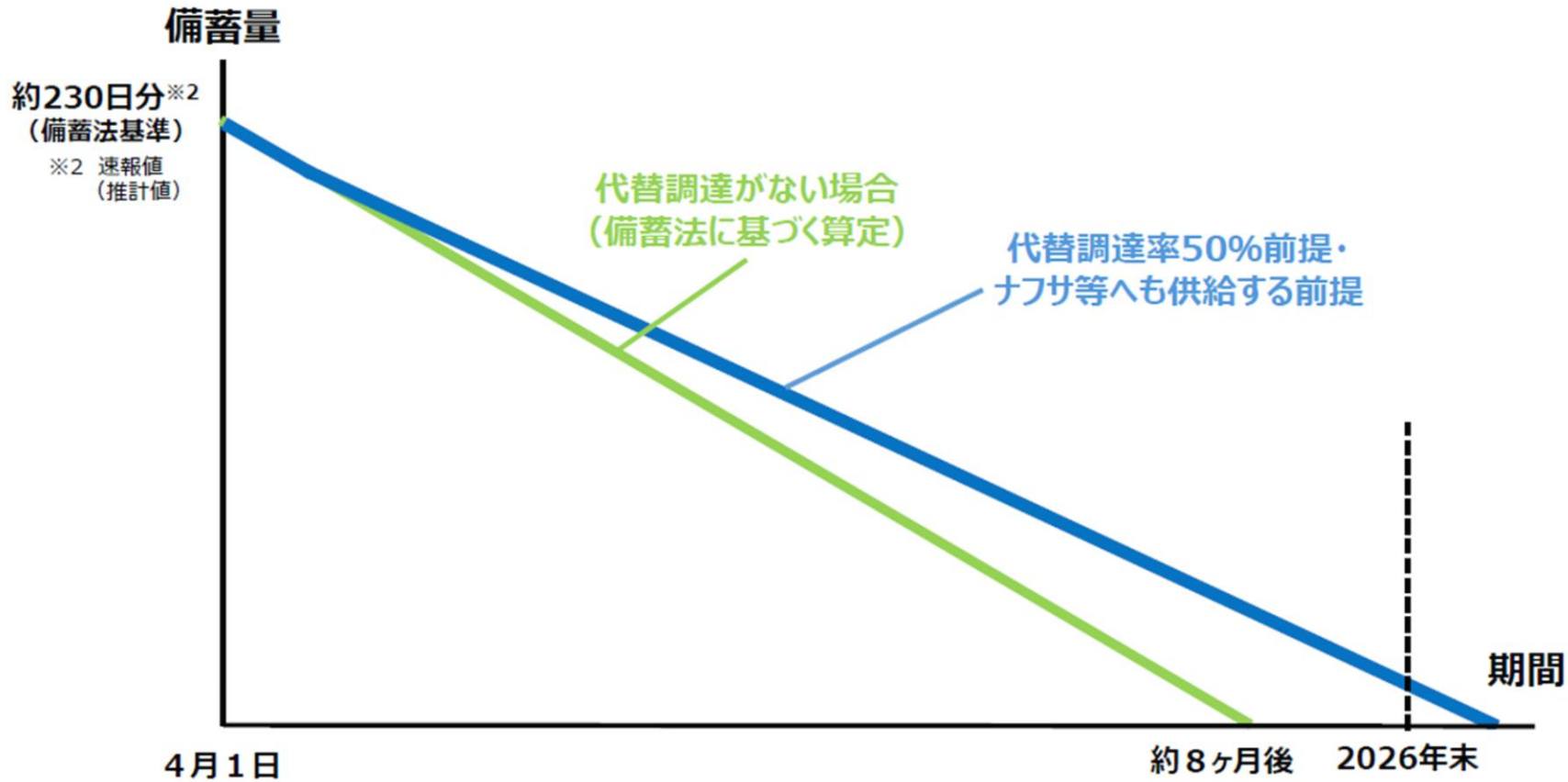
■石油製品国内需要の推移と見通し



(注) : B・C重油のうち、電力用C重油は見通しが示されないため2024年度実績見込を据え置きと仮定

出所: 資源エネルギー庁「資源・エネルギー統計」、「石油製品需要見通し」(2025年4月)

- 原油の代替調達の結果、備蓄放出量を抑えつつ、年を越えて、石油^{※1}の供給を確保できる目途がついたところ。
※1: ナフサを含め、燃料油以外の用途にも供給を継続する前提



出所：中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース（4月10日）

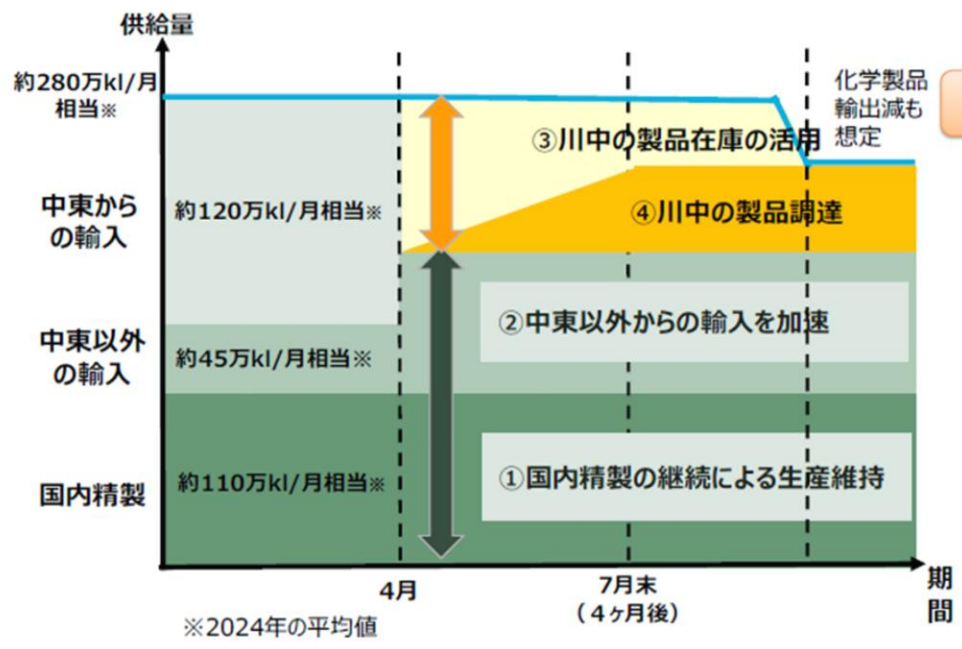
原油の代替調達については、ホルムズ海峡を通らないルートからの調達に最大限注力しています。現時点において、4月に前年実績比で2割以上、5月には過半の代替調達に目処がつかしました。特に米国からは、5月に前年比約4倍まで調達が拡大する見込みです。

日本には、約8か月分の石油備蓄があり、原油の代替調達の進展の結果、備蓄放出量を抑えつつ、年を越えて、石油の供給を確保できる目途がつかしました。代替調達率を更に引き上げるべく、産油国への働きかけを強化するなど、官民連携で一層取り組み、原油の安定供給に万全を期します。

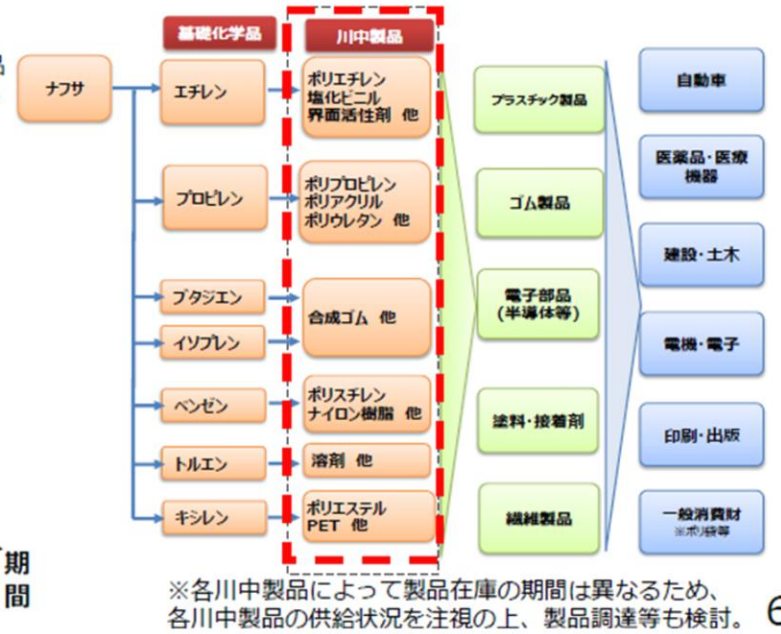


- 既に調達済みの輸入ナフサと国内での精製との2ヶ月分と、川中製品の在庫2ヶ月分（ナフサ精製が仮にゼロであっても需要を満たす供給ができる期間）で、少なくとも国内需要4ヶ月分を確保。
- 足下では、①原料のナフサの国内精製の継続（約110万kl/月相当）に加え、②中東以外からの輸入を加速（約45→90万kl/月）。これにより、③川中製品在庫（2ヶ月分）の取り崩し量は減り、在庫を活用できる期間を半年以上に延伸。
- さらに、④川中製品について、世界から新たな調達を強化。

化学製品の供給見通し（ナフサ相当ベース）

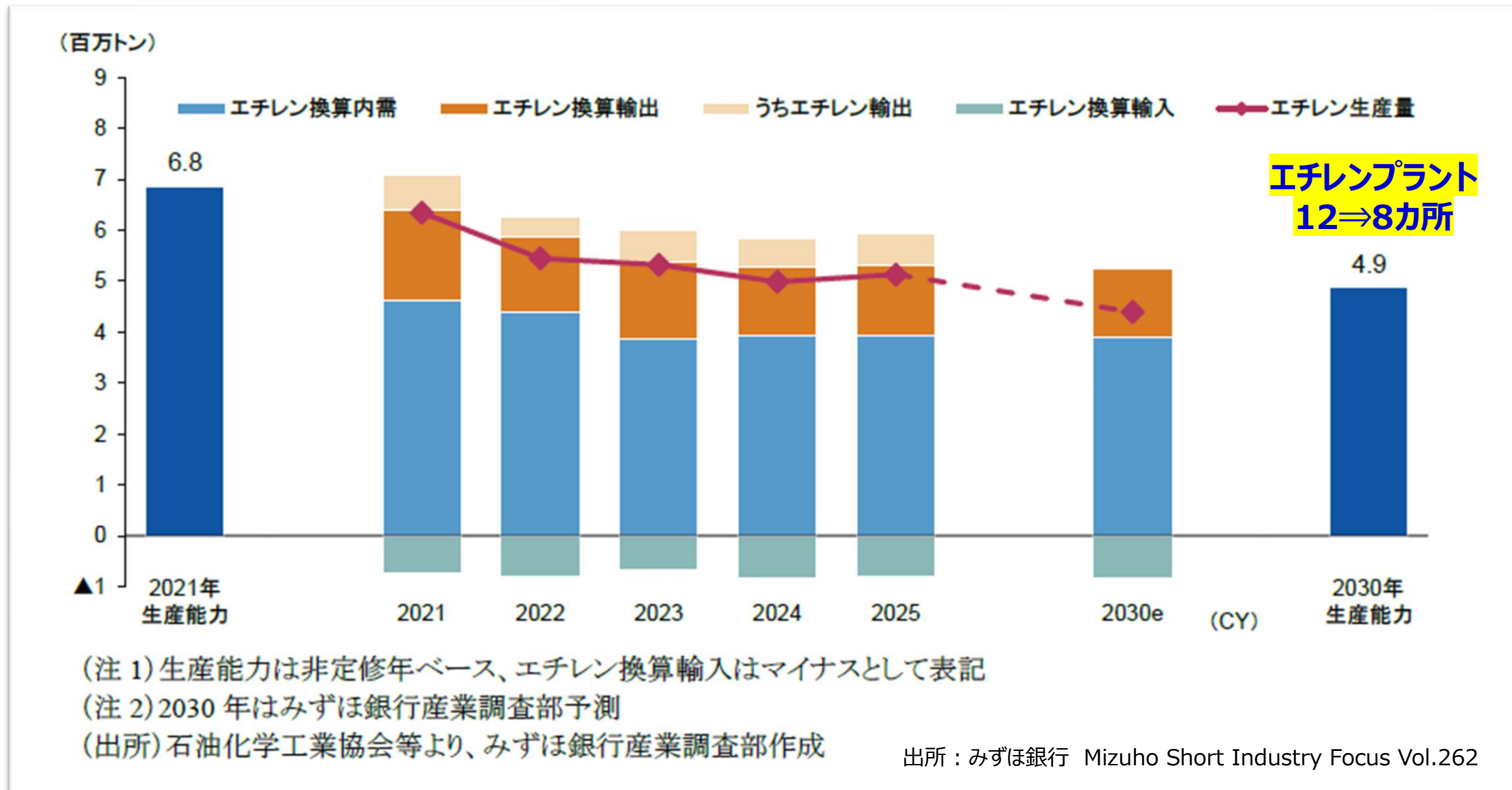


川中の製品在庫（2ヶ月分）



出所：中東情勢に伴う重要物資の安定的な供給確保のためのタスクフォース（4月10日）

国内エチレン換算需給バランスの見通し



北海・ブレント原油及び米国・WTI原油価格の推移

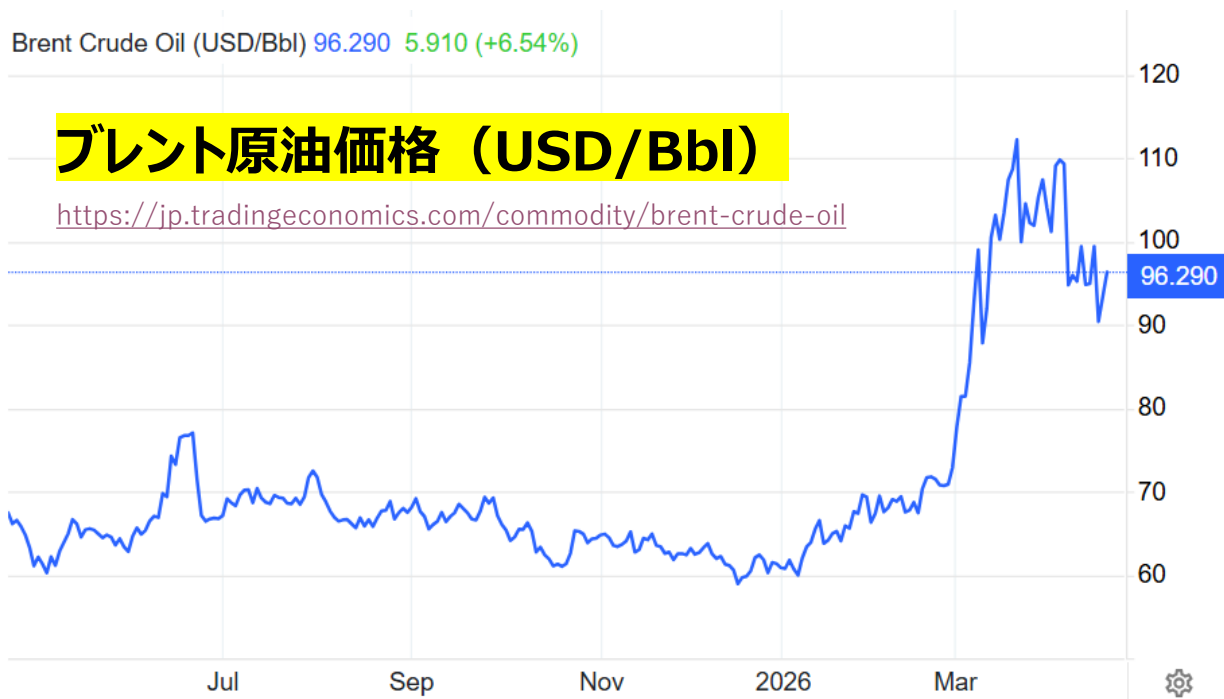


4/19 現在

Brent Crude Oil (USD/Bbl) 96.290 5.910 (+6.54%)

ブレント原油価格 (USD/Bbl)

<https://jp.tradingeconomics.com/commodity/brent-crude-oil>



Crude Oil WTI (USD/Bbl) 83.850 -10.840 (-11.45%)

WTI原油価格 (USD/Bbl)

<https://jp.tradingeconomics.com/commodity/crude-oil>



ナフサ価格及び原油価格の推移



ポリエチレンPE及びポリプロピレンPP価格の推移



4/16 現在

Polyethylene (CNY/T) 8046.0 -8.0 (-0.10%)

PE価格 (CNY/T)

<https://jp.tradingeconomics.com/commodity/polyethylene>



Polypropylene (CNY/T) 8353.0 -572.0 (-6.41%)

PP価格 (CNY/T)

<https://jp.tradingeconomics.com/commodity/polypropylene>



以上